

くらし・福祉を
ささえるまちへ



子育て応援します



北野のり子だより

*議員団控室 Tel740-1811

*日本共産党川西市委員会

川西市平野2-1-3

Tel792-2164

北野のり子の活動をお知らせ
しています。

福島県・福島市・南相馬市を訪ねて

7月11日~13日、震災がれきや除染のこと、被災地域の状況をもっと
知いたくて、日本共産党川西市会議員団で福島県へ行ってきました。



福島県庁の担当職員と懇談

地震、津波、原発事故：福島
県では3重、4重に及ぶ甚大な
被害を受けました。死者271
7人、行方不明者5人と多くの
人が犠牲となりました。そして、
未だ16万余の人々が避難生活を
余儀なくされています。
災害廃棄物処理について、国
は平成26年度末終了に向け、進
めています。これまで処理し
た廃棄物は全体の約14%、未解
体家屋が約38%もあり、なか
か思うようには進んでいま
せん。というのも最終処分場が
決まらない。ここが決まらな
いから中間貯蔵施設も仮置き場も
決まらない。そしてなんといつ
も放射能の問題が処理を困難に
しています。放射性セシウム濃
度が8,000Bq/kg超の指定



仮設に入居している
浪江町のみなさんと懇談

物の処理も保管をするだけで、
その保管場所にも苦勞している
というのが現状です。また、住
民のみなさんより「排ガスの中
に放射性物質が含まれているの
ではないか」、「遠くへ持って行
って欲しい」、「私たちは、家
に帰れない。がれき処理より
生活再建が先だ」等：の声もあ
り、住民の理解を得ることもむ
ずかしいとのことでした。
夢も希望もない。ただ生かされているだけ
入居者の48%が高齢者。「夏
は暑く、冬は寒い」、「出入口が
台所横の玄関一か所だけなの
で災害時（火事）、にげること
ができない」、「外に水道がな
い」等、仮設とはいえ、住環境

災害廃棄物処理の現状と課題



南相馬市小高区の商店

被災地は止まったまま

警戒区域が解除された南相馬
市小高区は、水道もガスも止ま
ったまま。壊れた家屋は手つか
ず、津波に襲われた車や船が転
がっており、あの日と変わらな
い光景を目の当たりにしまし
た。

が整わず、不安を抱えながら暮
らしておられます。また、「情報
が入ってこない。これから先ど
うなるのか分からない。自分た
ちはただ生かされているだけ、
死んでも入るお墓もない」等：
みなさんの思いをお聞きし、想
像を絶する状況にかける言葉も
見つかりませんでした。

津波で打ち上げられた船



塩害の田んぼ



今回、現地を訪れ、「福島
原発事故がなければ…」と
いう被災者のみなさんの声
が印象に残っています。今
もなお福島市の苦悩と困難は
続いています。
大飯原発再稼働を決めた
野田首相は、福島の人々の
苦しみや悲しみの声が聞こ
えているのでしょうか。

